

令和6年度第1回富谷市地域公共交通活性化協議会 会議録

開催月日		令和6年6月28日（金）							
開催時刻		10時30分			閉会時刻		11時25分		
開催場所		富谷市役所3階 305会議室							
議 事		(1) 会長及び副会長の選任 (2) 富谷市地域公共交通活性化協議会の設置について (3) 富谷市地域公共交通計画の位置づけ及び関連する計画 (4) 富谷市地域公共交通計画を構成する項目 (5) 計画策定のスケジュール (6) 本計画策定の関連事業「共創・MaaS 実証プロジェクト」について							
出席の状況（○出席者・×欠席者）									
1	若生 裕俊	○	2	徳永 幸之	○	3	関澤 京子	○	
4	吉田 敬	○	5	関 剛史	○	6	佐藤 雅之	○	
7	佐藤 桂	○	8	西川 和宏	○	9	遠藤 秀一	○	
10	鈴木 俊介	○	11	多田 康則	○	12	中村 信男	○	
13	菅原 順子	○	14	門間 とも子	○	15	郷古 直子	○	
16	増田 恵美子	○	17	大泉 加津江	○	18	岡崎 ミチ子	○	
19	戸根 美津子	○	20	武藤 裕子	○	21	星 貴美子	○	
22	高橋 幸恵	○	オブザーバー	齊藤 良太	○	オブザーバー	会津 聡人	○	
【代理出席の状況】									
宮城県 企画部 地域交通政策課長 関 剛史 ⇒ 主事 加藤 結子									
株式会社1038 代表取締役 会津 聡人 ⇒ マネージャー 秋澤 敬子 ※オブザーバー									
【傍聴者】5名									

議 事 内 容	
1. 開会 (10:30) 2. 市長あいさつ (10:31~10:34) 3. 議事 (10:35~11:21) 議長：徳永委員 (1) 会長及び副会長の選任 ○会長に若生裕俊委員、副会長に徳永幸之委員が選任された。 (2) 富谷市地域公共交通活性化協議会の設置について (3) 富谷市地域公共交通計画の位置づけ及び関連する計画 (4) 富谷市地域公共交通計画を構成する項目 (5) 計画策定のスケジュール [議事(2)から(5)まで、関連があるため事務局から一括説明] (6) 本計画策定の関連事業「共創・MaaS 実証プロジェクト」について	

[事務局から説明]

○質疑応答（別紙のとおり）

4. その他 （11：22～11：24）

○次回の協議会開催通時期について

[事務局から説明]

5. 閉会 （11：25）

記録：企画政策課交通政策推進室

令和6年度第1回富谷市地域公共交通活性化協議会

日時：令和6年6月28日（金）10:30～11:25

■質疑応答

委員等名	内 容（要約）
	(1) 会長及び副会長の選任 (2) 富谷市地域公共交通活性化協議会の設置について (3) 富谷市地域公共交通計画の位置づけ及び関連する計画 (4) 富谷市地域公共交通計画を構成する項目 (5) 計画策定のスケジュール (6) 本計画策定の関連事業「共創・MaaS 実証プロジェクト」について
郷古委員	富谷市には、学生や会社員が多い地域やご年配の方の多い地域があると思うが、それぞれの課題を平均的に捉えて考えていくのか、それとも各地域の需要に基づいた計画をしていくのか、そのようなことをこれから皆さんと一緒に考えていくというようなことでよろしいか。
事務局	ご意見いただいたとおり、交通の課題は地域によって異なるため、各地域の課題に応じた施策をこの協議会やワークショップなどが一体となって検討し、富谷市が目指す「住みたくなるまち日本一」の実現に向けて取り組みたいと考えている。
門間委員	私たち地域の方は、日々のバスの混雑や遅延など、目の前のことに目が行きがちだが、今日の話を聞いて地域づくりという観点からは、やはり将来のことを考える必要があると気づかされた。これから先どうしていくかということが考えられる場所であり、非常に勉強できると思った。地域に持ち帰るというよりも、地域から持ち出すものを多くしたいと思った。
徳永副会長	今住んでいる方もそうだが、今課題としては若い人が就職などで市外に出て行ってしまうということも、一方では交通がネックになって住み替えるということになってしまっているかもしれない。あるいは、新しく団地の開発があるかもしれないが、そのような場所にどういう人が来てくれるのかといったことにもつながってくるため、そのような意味で様々な角度から皆様の思いを汲み取りながら計画に反映できればいいと思う。
岡崎委員	しんまちのお店で働いているが、お客さんから「とみやどで休日にイベントがあるが、バスが運休のため高齢者は行くことができない。」とよく話を聞く。富谷市でも高齢化が進んできているため、そのようなイベント時に高齢者も利用できるような交通手段があればいいと感じている。

委員等名	内 容（要約）
鈴木委員	将来のことも考えていかなければいけないが、実は目の前の課題も重要であり、この公共交通計画を策定することで、国からの支援制度を活用して目の前の課題を解消できる可能性もあると思う。 このような計画の会議では、まちに賑わいがあり公共交通利用者が増加するなどといった明るい未来のことを考えたい。中長期的な課題の解消というのも重要だが、足元で今何が起きるかという運転手がいな。4月から2024年問題についてマスコミでもよく報道されていたが、運転手の働ける時間が減っている。さらに、近年では大型の免許を取ってバスの運転手になろうという若い人もなかなかいない。バスの営業所では、日々ドライバーを確保するために苦労しているが、一方で路線バスは運行すればするほど赤字が増えている状況である。 そのため、この計画の方向性の一つとして、持続可能性をテーマに挙げていただきたい。新たな取り組みを進めていく必要もあると思うが、まずは現状の把握をしっかりとした上で様々な議論をさせていただければと思う。
徳永副会長	交通は、普段見えにくい部分があり、利用しているバスの経営状況がどうなのかといったところまではなかなか見えていないと思う。これまでもそのような状況で議論されてきた部分があるかもしれないが、そのような情報も提供していただきながら、どのようにすれば本当に持続可能で明るい未来を描けるのかを議論ができればと思う。